

特集 ● ナシヨナリズムと歴史認識

日韓朝のナシヨナリズム

民主化から五〇年を過ぎた頃より軍国主義への郷愁を強めている日本。民主化から二〇年を過ぎてナシヨナリズムが強まる韓国。日本軍国主義の継承者としての性格を強める北朝鮮。米国出身で韓国に暮らす北朝鮮研究者と対立を深める東アジアの現状を考える。

ブライアン・マイヤース（韓国東西大）
学准教授 × 河辺一郎（愛知大現現代）
中国学部教授

河辺 マイヤースさんは、二〇〇六年一〇月一二日付けのニューヨーク・タイムスに論文を寄せられましたが、ここから話を始めたいと思います。

この論文であなたは、「ジャーナリストは北朝鮮をスターリン主義国家と呼ぶことに固執しているが、北朝鮮の世界観はファシストの日本とはるかに近い」、「北の体制はこれまでのところその人種プロパガンダを国内に限定しているが、それは北が世界に対してスターリン主義国家と誤解してほしいためである。ここ

で、一九八〇年代に共産圏諸国との間でうまく機能した、そして半世紀前には人種純粋主義者との間で大変に悲惨な失敗を見た信頼確立対話などについて、我々は希望つなぐことができる。北朝鮮は多くの人を殺すことができたが、日本帝国主義のように世界の安全に対して大きな脅威であるような態度はとらなかつた」と論じました。

この頃、二〇〇六〜二〇〇七年は、小泉純一郎首相が靖国に参拝し、その後継者である安倍晋三首相が慰安婦問題に関

する政府の立場を見直す意向を示し、米国で批判を受けていました。つまり、日本軍国主義の正当化と郷愁が強まると同時に、米国での批判が高まる時期でした。

当時の日本では、右翼が、北朝鮮の脅威が増大する中で日本の安全保障は米国に依存しており、ブッシュの戦争を支持しなければならぬとの理由から、対テロ戦争に関する日米関係の強化を主張していました。その右翼の行動が米国で批判されたのですから、大きな意味を持つはずでした。

リベラルは右翼のこのような主張を批判しますが、これはブッシュの対テロ戦争への批判、九・一一後に非寛容さを増していた米国社会に対する批判も伴いました。このため、米国におけるこのような動きは大きな関心を呼ばず、またその意味も十分には論じられませんでした。そして、今も日本右翼は米国の価値観を理解しないまま、日米関係の強化を求めています。

そのような状況においてあなたは日本と北朝鮮の共通性を指摘したわけですが、それは、米国と理念を共有しない日本右翼と米国の間に築かれてきた日米関係の矛盾と日本右翼の認識が抱える矛盾を指摘することでもありました。その後あなたは、*The Cleanest Race* を出版されましたが、そこでも同様の指摘をされましたね。そこで、米国の北朝鮮政策だけではなく、日米関係に関して、この論文がどのような反響を呼んだのかをお聞かせ下さい。

◇ 北朝鮮を共産主義と見なす背景

マイヤース この論文に対する関心は、ピョンヤン・ウオッチャーの世界に属する人よりも、それ以外の人々から寄せられました。その理由は、ピョンヤン・ウオッチャー業界の大部分にとって、北朝鮮を破綻した社会主義国家またはスターリン主義国家と誤解させようとすることに既得権益があるためです。

韓国政府は、北寄り感情の表現を抑制し、処罰できるようにするために、北朝鮮が共産主義であるとの誤解を必要としています。急進的ナシヨナリズムを理由にしては、北朝鮮同調者を投獄することがより難しくなるわけです。これらの同調者が支持する急進的ナシヨナリズムは、韓国社会においては正しいのですから。

韓国が共産主義者の脅威があるとの信念を装う必要がある理由には、在韓米軍を維持し、駐留費用の半分を米国が負担し続けさせることもあります。米国の納税者は、共産主義者から資本主義を守るためには費用を負担しても、急進的朝鮮

ナシヨナリストつまり北朝鮮から、穏健な朝鮮ナシヨナリストつまり韓国を守るためには負担しないことを、韓国は分かっているのです。

米国務省も北朝鮮が失敗した共産主義国家であるとの見解をとっていますが、これはいつの日にか外交的解決が達成できるとの果てしない楽観主義を、この見解が正当化するように思われるためです。もちろん国務省は交渉が続いていくことを望んでいます。もし失敗しても、関係する米国の外交官のキャリアを高める上では大きな意味を持ちますから。

財政やその他の理由、例えば観光、ビジネス、援助などのためにピョンヤンと協力する西側の人間も増えていますが、これらの人々も共産主義神話を好んでいません。世界的に、極右国家との協力は独裁強化と同一視されますが、極左独裁主義との協力は、「関与」「信頼醸成」「改革勢力」などと見なして道徳的に受け入れられるためです。エルトン・ジョンがソ連から帰ってきた時と、クイーンが南アフリカから帰ってきた時の扱いがどれだけ

違ったかを考えてみて下さい。

問題は、北朝鮮に関する議論でこれらの協力者の発言力が増大していることです。私は数年前に、ワシントンで開かれた政府の情報関係の会議に参加したのですが、パネリストの多くが北朝鮮問題の実際の専門家でもリサーチャーでもなかったことに衝撃を受けました。彼らの多くは援助や技術交流の名目で度々ピョニヤンを訪れていました。当然、これらの人々は、私が北朝鮮に関して述べるとに拒絶反応を起こしていました。彼らは、誰かが北朝鮮の人権侵害を指摘しても気にとめないのですが、私が北朝鮮を極右の疑似ファシスト国家だと述べると、椅子から飛び上がらんばかりでした。要するに、北朝鮮を極右と見なすことには大きな反対があるのです。

では、どう反論すればよいのでしょうか。ソ連もナシヨナリストで、中国は今もそうです。だから、北朝鮮のナシヨナリズムも共産主義の伝統によく収まるのです。この論理の背景には、ナシヨナリズムに対する英語圏の混乱があります。

日本語では、韓国語と同様に、国家主義と民族主義の間の大変重要な違いを区別しますが、私たち英語圏の人間は、この両者を一つの言葉で表現してしまうわけです。ところが、当然のことながら、ソ連、中国及びベトナムのような多民族国家の国家主義と、北朝鮮、日本またはドイツ第三帝国の民族主義の間には大きな違いがあります。

北朝鮮が極右であるよりはつきりした証拠は、エルンスト・ノルテがファシスト国家の主要基準として示していること、つまり平時社会の軍事化です。北朝鮮の軍人の比率は、一九三〇年代の戦前期のドイツやイタリアの軍人の比率をも凌ぎます。もちろん、ソ連や現在の中国の軍人よりも数倍高い数です。栄養失調の膨大な男女が、装備もない歩兵として、このハイテク時代に緊急性のない軍務に就いているのですから、もはや言うまでもありません。これは国内の政治機能を提供するために存在しているわけです。私がこのような線に沿って話をする、スターリン主義モデルを主張する人

は反論に困ることになります。もちろん、もつと分かりやすくするために、キムジョンイルとキムジョンウンがヒトラーの『我が闘争』を好んでいることに関する多くの噂を紹介することもできます。憶測を招くことがないように十分な議論を行うことが可能です。

要するに、私の *The Cleanest Race* がベストセラーを記録し、五、六カ国語に翻訳されても、私はピョニヤン・ウオッチャー・クラブの外に居続けているのです。

河辺 北朝鮮が日本軍国主義のような体制であれば、米国社会は北朝鮮に関与できないが、失敗した共産主義国家であれば関与できるとの指摘は、特に日本社会に属している者には興味深いものです。

ところで、あらゆる発言はそれが行われる社会のコンテクストの中でなされ、理解され、意味を持ちます。もつとも国際関係の学者、中でも理論研究者はこのことに反対することが多く、時には理解できないようですが、マイヤースさんは、日本軍国主義を容認しない米国や韓

国のコンテクストをふまえ説明されましたが、右翼が台頭し、中央政府のみならず東京、大阪、名古屋など大都市の首長も歴史修正主義者が占めた日本社会のコンテクストは大きく異なります。そこで、あなたは十分に理解していると思いますが、日本社会の認識を整理して述べさせていただきます。

日本では保守政党である自民党が長い間政権を握って来ましたが、自民党は大きく分けると三つのグループの政治家から成り立っています。

一つは農村出身の政治家で、彼らはその出身地域に中央政府の資金を投入することで支持を得てきました。いわゆる開発独裁型の政治家で、この代表は田中角栄です。

次は経済関係の官庁出身者を中心とする政策に詳しい政治家です。日本の高度経済成長神話に支えられて、彼らは保守本流と見なされてきました。対外的には穏健派で、代表的な政治家は池田勇人です。

最後に挙げることができるのが、岸信

介や中曽根康弘などの右翼政治家です。彼らは日本軍国主義に強い郷愁を抱き、民主的な価値を支持してはいません。しかし、彼らは強い反共主義者であったことから、米国との間に一定の関係を築くことができました。ただし、当然のことながらそれは軍事面に留まりました。彼らはそれ以外の問題に関しては米国会と語りあえる言葉は持っていませんでした。

冷戦の終焉の直後に、日本は経済危機を迎えます。これにより農村に利益を誘導することが難しくなり、開発独裁型の政治家の影響力が低下します。同時に、経済官僚出身の政治家への信頼も揺らぎます。

また、自民党が加わらない政権が四〇年ぶりに成立し、その後は自民党穏健派と社会党などが連立政権を作り、第二次世界大戦五〇周年の一九九五年には、首相が日本軍国主義を反省する談話を発表します。このような動きに対して、右翼政治家が危機感を強め、活動を活性化します。

そして、北朝鮮がいわゆる拉致問題への関与を認めたことが、日本の右翼を日本軍国主義の負債から解き放つこととなります。右翼は、冷戦の終焉により完全に否定された共産主義であるとみなしていた北朝鮮に対して、さらに攻撃的な姿勢をとることができるようになったのです。安倍晋三はまさにこの状況の中で台頭しました。彼は拉致問題がなければ二〇〇六年には首相になれなかったでしょう。

日本の右翼にとつて、北朝鮮は共産主義でなければならず、不可侵で、神聖で、万世一系の天皇と北朝鮮のリーダーが、いかなる意味でも共通性を持つことはあつてはなりません。米国とは異なる状況があるわけです。このため、北朝鮮を擁護する者が、テレビ、主要な新聞または公式な会議に登場することは想像もできず、人道的関係を主張する者も発言が難しい状況です。

マイヤース 日本政治は私にとって理解が難しい面があるので、あなたの説明に感謝します。

北朝鮮がこれまで以上に明白な軍国主義で冒険主義であることが日本の極右にとって天の恵みであることは、間違いないと思います。振り返れば、ピョンヤンは大変にわずかな利益のために東京を拒否し、大変に重要なカードを投げ捨てたのですが、私は、ピョンヤンがこのことに気が付かなければならないと思います。なぜキムジョンイルがこのような特質のない、そしておそらく誤った助言により、悔恨と正直さのショー、つまり拉致を認めて謝罪したのか。横田恵さんや他の人々の拉致は単に非人道的であるだけではなく、驚くほど軽薄でした。親ピョンヤンの在日朝鮮人が進んで提供できない一方で拉致被害者が北朝鮮に提供できることは、ごくわずかしかなかったのですから。北朝鮮は一九七〇年代初期に東京のロビー活動の成功と面倒な独島／竹島問題を回避することにより、莫大な恩恵を享受してきたのですから、これは私たちがさらに理解できないことなのです。河辺 私も、二〇〇二年まで北朝鮮が拉致を行ったとは思っていませんでした。

マイヤースさんも指摘するように、現実の社会に関する知識も十分ではない中学生などをさらつても意味がないことに加えて、朝鮮総連が詳しい情報を提供できたのですから。

それまで私は、北朝鮮が日本軍国主義の過ちを教訓として、多少は合理的な行動をする体制だと思っていました。しかし、拉致が発覚し、北朝鮮が、各部署が功績を挙げることを求めて、合理性と整合性がなのままに行動していることに、改めて驚きました。満州で関東軍が天皇への忠誠を理由にして暴走を正当化する様子とよく似ています。北朝鮮は日本軍国主義の過ちを改良した体制ではなく、日本軍国主義そのものだと言えます。マイヤース 河辺さんが日本の政治について整理してくれたので、私も韓国と北朝鮮についてまとめましょう。ソウルはキムデジュンを拉致することで、東京とピョンヤンの接近を後押ししました。しばらくの間、北朝鮮はソウルよりも東京に接近していたのです。一九八〇年代に入ってもなお、朝鮮労働党は

日本共産党よりも自民党と間違いなく友好的でした。日本共産党は、北が主体思想を公言したことにより、深刻な問題を抱えていたことはご存じの通りです。ピョンヤンと東京の間の関係の最初の否定的な動きは、おそらく一九八七年の大韓航空機爆破事件ですが、拉致が友好関係を封じ込めました。

一方、北朝鮮が自分自身のために日本に関心を持ったことは一度もないことを認識しなければなりません。基本的に日本は常に在日朝鮮人からの資金源と反韓活動の基地と見なされてきました。ファン・ジョンヨプが回想録で述べているように、一九八〇年代後半、朝鮮労働党は反韓活動の旗の下では、日本のブルジョア政党との関係を悪化させるような活動は何もしていません。ファンはキムジョンイルが、日本共産党に代わって、主体に忠誠を誓う新たな共産党の創設を支援することを夢見ていたとも述べています。

◇統治手段としてのナシヨナリズム

北朝鮮の軍国主義と冒険主義がいかに

日本極右を助けてきたかという問題に戻ると、韓国も多少の非難に値すると思います。韓国は西ドイツの道をたどることができました。つまり、ナシヨナリズムを全面的に捨て去り、代わりにかつての民族的な敵との間でも共有できる基本的な民主制の価値を強調できたのです。もしそうしていたら、北朝鮮の民主化のためにより効果的で、北朝鮮の旗の下で朝鮮半島を再統一するとの夢を放棄させられたでしょう。ちょうど、東ドイツの民主化を支援することで西ドイツの右と左が基本的に協力したように。

しかし、一九四八年に韓国と北朝鮮が建国されて以来、韓国政府は国家建設のための基本的な任務を全て怠ってきまして。おそらく韓国は、共和国の記念日を持たず、その紙幣に一人の共和国市民も印刷されていない唯一の共和国でしょう。要するに、統一された共和国のシンボルが全くないのです。大半の人々は韓国が建国された年すら答えることができません。対照的に北朝鮮では象徴だらけです。代わって韓国では、国を束ね、

激しい地域対立と階級対立を超越するために、ナシヨナリズムを用いたのです。これは事実上、反日感情に煮詰まります。韓国人であることは、伝統文化への誇りではなく被害者意識により理解されるわけで、これは一九世紀や二〇世紀初頭のドイツのナシヨナリズムと大変によく似ています。

これは、日本がいくら過去について謝罪しても、韓国は反日感情と決別できないことを意味します。韓国が、保守政権の下であつても、独島／竹島に関する日本の声明に対して北朝鮮の侵略行為に対する以上に強い反応を示すのはこのためです。例えば、二〇一〇年三月の「天安」沈没（一〇四名の乗組員を乗せた韓国軍哨戒艇「天安」が、黄海の北方境界線付近で沈没し、北朝鮮の攻撃または機雷に接触したことが原因とされた事件）に対するイミョンバクの抑制された対応と、二〇一一年に独島／竹島を訪れた際のレストランブレイを比較して下さい。

もちろん、韓国世論も反日感情から離れることはできません。このことは、奇

妙な時期だった二〇〇五年に劇的に明確になりました。これは韓流に刺激された日本の韓国熱が頂点に達した時ですが、同時に、韓国の報道機関が、独島／竹島に関して特に激しく日本たたきのキャンペーンを展開していたのです。当時、私は、韓国を愛する日本の韓流旅行者の少人数のグループが、ソウルで激しい反日デモに遭遇しこわごとと大急ぎでやり過ぎのを見たことをよく覚えていました。これは、この時に和解の機会が失われたことを示す象徴のようでした。

私はこの教訓を日本の世論が忘れていないと思います。多くの日本人の間で、次のような姿勢がわき上がっているのを感じるので。「韓国人は何を問題にしているのか、私たちの謝罪は決して受け入れられないのか、どちらにしても、韓国人は日本人を憎み続けるのか」と。この姿勢が極右の隠れ蓑となり、安倍の根拠のない挑発的な行動に対する世論の批判を弱めてしまっています。

河辺 一方で、二〇〇二年の小泉とキムジョンイルの会談において発覚した拉致

問題を契機に一挙に影響力を増したのが安倍晋三です。日本右翼にとって北朝鮮が不可欠の政治的な支持者だと言ってもよい側面があり、同時に安倍政権の存在は北朝鮮の強硬派にとっても好都合な役割を果たしてはいませんか。

マイヤース 私は、日本の極右が共産主義の北朝鮮という亡霊を必要としているとは評価しません。もちろん、北朝鮮の極右が現実化するものは、確かに日本の世論を脅かす上でよく機能するでしょうし、日本の極右を支援することにはなりません。結局、東の共産主義陣営は数十年間にわたって核兵器を持ち続けたが一度も使わなかった一方で、北朝鮮のような極右の超国家主義国家は、何でもしますから。

河辺 この点に関して、六カ国協議についてはどうでしょうか。六カ国協議において日本は厄介者のようです。日本と北朝鮮以外の四カ国は、北朝鮮の崩壊の防止と非核化に関心を持っています。もし五カ国であれば協議はうまく行くのか、それとも日本を欠くことは北朝鮮にとつ

てよくないのででしょうか。

マイヤース もちろん、六カ国協議における日本の存在は大変な刺激物です。また、韓国人にとってこれは同胞である北朝鮮と敵対する場ですが、その場において古い民族の敵である日本と同じ側に座ることを好まない韓国人の中では、六カ国協議への支持が低下しています。しかし、日本が関わるうが関わるまいが、協議はどのみち破綻するでしょう。

理由ですか？ 北朝鮮は、豊かな韓国の隣に存在する全ての理由が失われていない中では、核武装と装備計画を手放すことができないからです。北朝鮮は先軍国家、言い方を変えれば、強靱さや決意などの超国家主義者の言葉に関して正当性を主張し続けることでのみ生き残ることができます。交渉のためのどんな形式も、この基本的な政治的事実を変えません。北朝鮮を軍縮と改革に向けて説得できると主張するアメリカや韓国の穏健派は、二流で時代遅れの韓国のようなものとして存在する必要をなお主張するこの体制が、どうしたら軍縮し改革できるか

という問題に答えるべきです。私の経験では、誰もこの問題に答えられていません。

河辺 少々横道に逸れますが、私は日本の右翼をどのように呼ぶべきか、いつも迷うのです。これがヨーロッパであれば彼らは極右と言うよりもネオ・ナチと呼ばれるべきでしょうから。

さて、第二次世界大戦後の韓国の役割に関連して、一つ指摘したいと思います。

◆歴史を軽視する東アジア

東アジアの諸国はいずれも、第二次世界大戦後に不要な負担や犠牲を押しつけられたと感じています。例えば日本の右翼は、自分たちは伝統的な日本の考え方（もちろんそれは伝統的ではなく一九世紀後半以降に作られた新しい考え方です）を否定され、米国から民主的な憲法を押しつけられ、さらにソ連、中国そして北朝鮮から不当な脅威を受けてきた被害者だと認識し、これに対して左翼は、米国に基地を押しつけられ、戦争に参加する圧力をかけられ続けていると考えま

す。このため日本人は、極右だけではなくリベラルも、自分たちの政府が対外的に何をしてきたのかを検証する関心を持たず、中国や米国の戦略を分析することのみ労力をつぎ込むのです。

同様のことが韓国、北朝鮮、台湾、さらには中国にも当てはまります。立場により評価は大きく異なりますが、問題の原因を社会の外に求めようとする同様の傾向を見ることができません。このような被害者意識は常にナシヨナリズムの母となり、自分たち自身の責任を直視することを妨げるのです。

あなたは、人道活動家などの米国のリベラルがしばしば朝鮮半島の現実から目を背けるとおっしゃいましたが、アジアのリベラルは自分たちの対外政策を直視することも拒否し、その責任を米国に移そうとする傾向を強く持ちます。これはいわゆる歴史認識問題にもあてはまりません。歴史は一九四五年で終わっているのではなく、一九四五年以降も歴史であり、それぞれの国が何をしてきたのかが問われなければならないのですが、アジア諸

国は互いに語る機会を失いつつあるだけではなく、米国の語る理屈を利用しなければ語り合うこともできないのです。

マイヤース 数年前、シュペングラールを読んでいた際に気が付いたのですが、朝鮮は、南北とも、古代ギリシャの歴史軽視社会に大変に似ています。終わりのない継続性の中の一時点としての現在とは、本当に認識していないのです。その代わり、全面的に現在に生きており、古いものを見下し、壊します。私が住んでいるプサンは朝鮮戦争において戦火に晒されなかったのですが、三〇年以上前の建物はみかけません。

C・S・ルイスが指摘していますが、歴史軽視社会はごく最近と極端に神話化された過去に関心を集める傾向にあります。平均的な韓国人は、自国の歴史をきわめて単純で、善悪をはっきり分け、植民地時期（主にポップカルチャーの描写に基づく）の善悪観、そして特に解放後の韓国の虐待への単純な見方に、短絡化します。大卒の韓国人でもこれは変わりません。

私は日本についてはよく知りませんが、日本が広島について語る際に、なぜ広島への原爆投下が導かれたのかに関する深い意識がないように見受けられます。アメリカ人は今、靖国神社に附属する、日本を犠牲者として展示する遊就館について、偶然にも学んでいます。

河辺 古代と近現代に焦点を合わせるのはまさに日本右翼の特徴でもあります。が、今の広島に関する指摘はリベラルにも当てはまりません。

例えば、最も影響力があるリベラルの国際政治学者の一人である藤原帰一が、二〇〇一年二月に、『戦争を記憶する』と題した彼の最初の単著を出版しました。米国でブッシュ政権が、日本で小泉政権が発足したのと同じ時で、満州事変とパールハーバー爆撃の記念の年でした。この本は広島、沖縄そしてアウシュヴィッツなどの問題について語りながら、特に日米の人々がどのように歴史を記憶してきたのかに焦点を当てています。ですが、満州、南京、マニラ、パールハーバーまたはバターンなどには当てな

いのです。

日本人の多くは、一九四一年よりも前の米国では保守派の多くが外交的には孤立主義者で、強く平和を唱えていたこと、それを根本的に変化させたのが日本軍国主義であること、そして日本軍国主義やナチスと戦った経験が、米国に原爆を作らせ、C I A を創設させたことを認識していません。つまり、有名なアイゼンハワーの退任演説（一九六一年一月、アイゼンハワーが大統領退任演説において、それまで常備軍を持つことに躊躇していた米国が、第二次世界大戦を契機に巨大な常備軍を維持し、軍需産業と一体化して軍産複合体を構成し、政治に影響力を与えていることに警鐘を鳴らした）の意味は正しく理解されていないと言えます。日本の歴史学者や国際関係学者の多くも同様です。例えば藤原の本は、ナチスが米国社会を根本的に変えたように記述する一方で、日本軍国主義への言及はありません。彼の無知も原因の一つでしょうが、現代の日本社会の認識がよく示されています。

このため、日本人の多くは、躊躇することなく米国を戦争好きな国として批判する一方で、日本を唯一の被爆国である平和国家として位置づけます。言うまでもなく、日本政府は米国の核戦略を熱心に支持し、国連総会などの核軍縮決議の多くに反対してきたのですが、これらの事実は顧みられません。米国を批判することで日本を救済し、無謬化してしまうのです。米大統領が広島を訪問すべきだと表明する人々が、日本総理大臣のアリゾナ記念館や南京の記念館訪問を主張することが少ないのは、当然と言わざるを得ません。

簡単に言えば、平均的な日本人は中国や韓国に対しては戦争責任を感じていますが、米国に対しては感じていません。広島は、日本が米国の被害者であることを象徴しているのです。日本軍国主義が世界を変え、戦争の効果を確信し、戦うことに躊躇しない米国を生み出したとは、日本人は考えていません。これはまさしく歴史認識の問題であり、この点で、極右の歴史修正主義だけでなく、

リベラルの歴史修正主義も無視できません。きわめて「歴史軽視」なのです。

こうした状況は、あなたが指摘しているように、実に植民地的です。奇妙なのは、植民地支配を受けていない日本でこれが観察されることです。そして、あなたが指摘するように、日本に植民地支配された韓国ではこれがさらにエスカレートしています。私が、日中韓が相互に理解できる言葉を持たないばかりか、日中韓以外の社会に対しても主張できる言葉を持たないと考えるのはこのためです。

日中韓はしばしば自分たちの伝統文化を誇りますが、C・S・ルイスが、そしてあなたが指摘するように実は歴史を見つめてはいません。日本の極右と北朝鮮はこの典型で、だからこそ歴史問題が繰り返され、先鋭化します。彼らが他の社会に向けて語り得る言葉をもっていないのであれば、その文化はまさに「古き良き」伝統に留まっており、現代的文脈の中でとらえることができていないことになると言えるでしょう。

マイヤース 結局、アジア諸国が神話化

された過去に固執し続ける限り、関係改善への希望はありません。全てのアジア諸国が集まって共通の歴史教科書を執筆しようという解決策も示されていますが、ばかばかしいほど非現実的です。自分たち自身で「ネイション」を定義する肯定的な価値を各国が見つけることが真の解決です。私は講演などで韓国人に言い続けているのですが、米国とフランスが国を作り始めた際には、一九四八年の韓国よりも悪い状態だったのです。米国には奴隷制があり、フランスは罪のない女性や子どもさえもギロチンにかけていました。しかしこれらの国はいつまでも過去に留まろうとはせず、これらを克服する努力を続けました。ところが、日本、韓国、そして中国は、異なりませぬ。日韓に比べれば中国ははるかに少ない程度ではありますが。現在の米国は統一を達成しており、異論のない、人種を超越した、アイデンティティの象徴を確立しています。韓国人も、自らを永遠に無辜の存在として定義するのではなく、韓国人であることの肯定的で統一した象徴を

確立する必要があります。ソウルの日本大使館の前に設置されている慰安婦／女の子の小さな像は、韓国人が世界において自分たち自身をどのように見ているのかを示しています。つまり、無邪気でありながら常に虐待されているのです。これは健全ではありません。このような自己認識を持つていては「主体性」は決して獲得できません。

深刻な危機は、韓国が、北朝鮮が謝罪しないにもかかわらず全ての暴挙を赦す準備がある一方で、民主的な隣国である日本を中傷し続けることです。これはピョンヤンに対して、民主的な原則よりも血筋を重んじるという誤ったシグナルを送ることです。このようなシグナルは、北朝鮮の侵略や核によるいやがらせに対する韓国の抵抗を、ピョンヤンに過小評価させることになります。

河辺 日本に関して言えば、日本は共通の歴史教科書を周辺諸国と編集できないだけではなく、米国とも作れません。この文脈で、少なくとも日本にとっては、北朝鮮が日本軍国主義の継承者で、金一

族は日本の天皇と似ており、日本軍国主義を正当化しようとする安倍は現代の世界からは受け入れられないと宣言することが重要なのですが、可能性はきわめて低いとしか言えません。

念のために付け加えれば、私は米国が良いと言っているわけではありません。その力の大きさ故に米国はさまざまな点から批判されるべきです。

同様に大きな力を持つ東アジアの諸国・地域が自らを厳しく見直すのは当然のことです。しかし、アジアが問題を自ら解決できず、エスカレートさせるばかりであるのならば、アジアの誇る文化とは何なのかが、深刻に疑われます。アジア人の一人としては大変残念ですが、そのように言わざるを得ません。

大変に示唆に富んだお話をありがとうございました。

マイヤース こちらこそ思慮深いお話に感謝します。

(二〇一四年一月七日)